

授業科目	社会福祉調査の基礎					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	4	開講時期	前期
担当教員	杉谷 修一						
授業概要	この授業では、社会福祉調査の意義と目的および方法の概要について理解することを目標とする。社会福祉調査は社会的存在としての個人から制度にいたる幅広い対象を量的・質的なデータとして把握しようとするものである。それらの特徴を区別・理解した上で、適切な調査を行うための実践的基礎を養う。また、社会福祉調査をめぐる倫理上の諸問題を検討し、社会福祉調査に携わる者としての最低限必要とされる倫理的態度と方法を学ぶ。						

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	(1) 社会調査の意義と目的について理解できる。 (2) 社会調査と社会福祉の歴史的関係について理解できる。 (3) 社会調査における倫理や個人情報について理解できる。 (4) 量的調査の理論と方法について理解できる。 (5) 質的調査の理論と方法について理解できる。 (6) ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解できる。
理想的レベル	(1) 社会調査の意義と目的について十分理解できる。 (2) 社会調査と社会福祉の歴史的関係について十分理解できる。 (3) 社会調査における倫理や個人情報について十分理解できる。 (4) 量的調査の理論と方法について十分理解できる。 (5) 質的調査の理論と方法について十分理解できる。 (6) ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について十分理解できる。

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	100%	
小テスト	0	
レポート	0	
発表（口頭、プレゼンテーション）	0	
レポート外の提出物	0	
その他	0	

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	WE21204J
学習課題（予習・復習）										1回の目安時間（時間）	
予習 ・Google Classroom に掲示する資料（配布スライド資料、参考資料、動画リンク等） を活用する。 復習										4	

・予習で使用した資料に加え、授業中に指示した資料を活用し、興味、関心、疑問点を調べる。	
授業計画	
第1回	社会福祉調査の意義と目的・倫理と個人情報保護 社会福祉調査の意義と目的、調査倫理と個人情報保護の意義と注意点について概説する。
第2回	統計法の概要 統計法の目的、統計法で取り扱う用語の整理、統計法の運用や罰則などについて概説する。
第3回	社会調査の歴史 19世紀のブースやラウントリーらイギリスの貧困調査から、第二次世界大戦後の計量的調査、20世紀後半の質的調査まで社会調査の歴史について概説する。
第4回	母集団とサンプリング 量的調査のうち、母集団とサンプリングの関係及びサンプリング手法の種類と特徴について概説する。
第5回	横断調査と縦断調査 横断調査（国勢調査や世論調査）と縦断調査（パネル調査やコーホート調査）の目的と特徴について概説する。
第6回	尺度水準と統計量 データを測定する4つの尺度水準と記述統計量（代表値や散布度）の適用範囲について概説する。
第7回	調査票の作成 調査票（アンケート）の作成にかかる、研究目的、作業仮説、ワーディングなど項目設計、同意書などについて概説する。
第8回	調査票の配布・回収 調査票の配布方法、回収方法の種類と特徴について概説する。
第9回	量的調査の基礎（1）データの概要 調査結果を整理し（欠損値や外れ値の処理、アフターコーディングなど）、図表や代表値（平均値、中央値など）などによりおおよその傾向として把握する方法について概説する。
第10回	量的調査の基礎（2）2変数の要約 記述統計量（クロス集計、積率相関係数、順位相関係数など）で2変数間の関係を数値化し要約する方法について概説する。
第11回	量的調査の基礎（3）推定と検定 第9回・10回の授業で取り上げた要約が正しいかを確認する統計的推論（推定と検定）の方法について概説する。
第12回	質的調査の基礎（1）面接法・観察法 構造化、観察者の関与などにより分類される面接法や観察法の特徴について概説する。
第13回	質的調査の基礎（2）事例研究・ナラティブラプローチ 特定対象（個人、集団、組織など）を詳細に分析し、その特性や背景を明らかにする事例研究と、主体の語りに注目するナラティブラプローチについて概説する。
第14回	質的調査の基礎（3）エスノグラフィー・TEM フィールドワークを通じ、集団や組織の社会活動について内部の視点から描き出すエスノグラフィーと、人生を多様な経路と蓋然性が高い到達点の組み合わせで分析するTEMについて概説する。

第 15 回	質的調査の基礎（4）GTA・アクションリサーチ 収集したデータをもとに機能的にカテゴリーを組み立て理論化を目指す GTA と、社会的課題解決のために調査と実践をサイクルとして追及するアクションリサーチについて概説する。
テキスト	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座5 社会福祉調査の基礎』中央法規
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	総務省統計局『なるほど統計学園初級・上級』 https://www.stat.go.jp/naruhodo/index.html 総務省政策統括官（統計基準担当） 『生徒のための統計活用』『高校からの統計・データサイエンス活用 上級編』 https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/info/guide/stkankyo.htm ※その他、Google Classroom にも資料を掲示する。
課題に対するフィードバックの方法	課題・質問等への回答は以下のように行う。 (1) 授業中に全体に説明する。 (2) Google Classroom に掲示する。 (3) メールでの質問は本人への回答を基本とするが、許諾があれば全体で共有する。
学生へのメッセージ・コメント	社会福祉の対象となる個人や集団を調査によって把握・理解するための基礎的方法を学ぶ授業である。このような対象にはこの方法、この方法にはこのような長所と短所があるなど、使用場面や限界などを具体的にイメージしながら学んで欲しい。授業において、テキストや資料の解説をじっくり行うので、統計的方法や数学の基礎的考え方馴染みがない学生も、粘り強く学習に取り組んで欲しい。

